

[落雷に関する理解]

- 雷は雷雲の位置次第で、場所を選ばずに落ちる。近くに高いものがあると、これを通して落ちる傾向にある。
- グラウンドやプール、堤防や海岸など開けた場所、山頂や尾根などの高いところでは、人に落雷しやすくなる。
- 事前に降雨や雷鳴が聞こえるなどの予兆がないときでも落雷は発生する。
- 遠くで雷鳴があったとしても、その雷は自分のいる地点で落ちる可能性があったという認識を持つ。
- 落雷を誘引すると思われる物を身に付けていなくても、雷が落ちることがある。

[情報の収集・把握]

- 屋外活動を行う前に、天気予報の「雷注意報」の有無を確認する。
- 注意報が発表されているときは、活動中も随時、空の様子に注意し、雷ナウキャスト等の気象情報を活用しながら、最新の情報把握に努める。
- 活動前に、避難場所と避難方法を確認し、参加者に周知しておく。
- 落雷の予兆
 - ・ 黒っぽい雲が近づいている。
 - ・ 雷鳴や雷光がある。
 - ・ 急に冷たい風が吹いてきた。

[活動前、活動中に天候の急変（落雷の予兆）等があったときは]

- ◎ ためらうことなく計画の変更・中止等の適切な措置を講ずる。
※活動を中止したときの代替案を事前に設定しておく。
- 下校前のときは、情報を収集し、必要に応じて学校に待機させ、保護者に連絡し、連携を図る。

[活動を再開するときは]

- 雷ナウキャスト等により情報を十分に収集し、安全を確認した上で判断する。
 - ・ 上空に雷雲がない。
 - ・ 周辺で雷鳴や雷光が30分以上ない。

[登下校の時間、天候の急変（落雷の予兆）等があったときは]

- 家（学校）を出る前の場合は、保護者に送迎をお願いする。
- 家（学校）を出た後の場合は、近くの安全な場所（建物、自動車の中など）に避難するよう、児童に指導しておく。
- ☆ 毎年、保護者へ通知文「雷注意報」の発令や天候の急変（落雷の予兆）等があったときの対応について」を出す。

[その他]

- 毎年、全職員で対応を確認するとともに、児童に対し「落雷事故の防止」について指導を行う。落雷事故防止のためのチェックリスト等を活用。
- 落雷に関する正しい知識は常に最新のものとなるよう、本マニュアルを随時見直していく。